

主 文

本件抗告を棄却する。

理 由

本件抗告の趣意は、いずれも単なる法令違反の主張であつて、刑訴法四三三条の抗告理由にあたらぬ。

なお、刑訴法一八八条の二、一八八条の六により補償すべき費用のうち、被告人又は弁護人であつた者に対する旅費、日当、宿泊料については、これらの者が公判準備及び公判期日に出頭した時点を、また、弁護人であつた者に対する報酬については、当該各審級の判決宣告の時点を、それぞれ基準として算定されるべきであるとした原審の判断は、正当である。

よつて、同法四三四条、四二六条一項により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五四年一月二日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	江	里	口	清	雄
--------	---	---	---	---	---

裁判官	高	辻	正	己
-----	---	---	---	---

裁判官	環		昌	一
-----	---	--	---	---